

言語の研究

第 7 号

保坂本『源氏物語』における主体敬語オモホス	竹部 歩美	1
学会名称の変更について	浅川 哲也	25
味覚形容詞に下接する「さ」と「み」の使用実態について —「N ₁ のN ₂ 」に着目して—	松本 匡史	(1)
インターネット上にある新語・新表現について —Twitter・Yahoo!知恵袋での最古例を中心に—	高橋 快征	(15)

東京都立大学
言語研究会
2020.12

言語の研究

第7号

GENGO NO KENKYU
(Inquires into Japanese Language)

No.7 December,2020

CONTENTS

TAKEBE Ayumi : A study of the Respect-Expression "Omohosu" in "The Tale of Genji, Hosaka Text"	1
MATSUMOTO Masafumi : The actual usage of "sa" and "mi" attached to adjectives of taste: Focusing on "N ₁ no N ₂ "	(1)
TAKAHASHI Kaise : About the new word and the new expression in the internet: The consideration which put emphasis on the oldest example in Twitter and Yahoo! Focusing	(15)

東京都立大学言語研究会

Edited
By
TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY GENGO KENKYUKAI
HACHIOJI, TOKYO

編集後記

本誌に投稿してくださった会員の御研鑽と、本会の運営委員の御尽力により、本誌第7号を発行することができた。衷心より御礼を申し上げる。

本号の編集の経緯は次のとおりである。本号には、学術論文として四件の投稿があったが、そのうち一件が投稿の取り下げとなり、三件が査読の対象となった。三件のうち二件が「修正採用」となり、一件が「再投稿」となった。「再投稿」は、再投稿論文を受理の上、再査読となり、「修正採用」となった。この結果、本号に掲載された学術論文の数は三件である。

新型コロナウイルス禍による、大学授業の突然のオンライン化など、大変な時期にも関わらず、査読をお引き受け下さった先生がたには改めて御礼を申し上げます。

なお、本号は、諸般の事情が重なり、例年よりも遅れての発行となった。投稿者、会員には、たいへんご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。

会員の優れた学術論文を学界に広めるために、本誌が少しでもお役に立つことができれば、会として幸いである。会員の皆様には奮って玉稿の御投稿を賜りたい。

二〇二〇年一月一日 浅川 哲也

東京都立大学 言語研究会

会 長 浅川哲也

副会長 神田明延

運営委員 李 讓珍・グリブ、デイナー・竹部歩美・

馬 雲・山本 淳・吉田永弘・劉 志偉

(五十音順)

編集主任 浅川哲也

言語の研究 第7号

二〇二〇年二月一日印刷

二〇二〇年二月二日発行

発行者 東京都立大学 言語研究会

代表者 浅川 哲也

〒一九二一〇三九七

東京都八王子市南大沢一―一

東京都立大学 人文科学研究科

日本語教育学事務室気付

電話番号 〇四二・六七七・二一九四

振替口座 一〇〇七〇―二七〇六三八一

(ゆうちょ銀行)

印刷所 株式会社 秀飯舎